



学生ロングチャンピオンを決める前日、秋深まる日光だいや川公園で、全国各地から多くの学生が参加し、トレイルOの学生チャンピオンを目指し競技が行われた。

インカレにトレイルO大会併設が定着

トレイルO大会がインカレに併設されることがすっかり定着してきており、今年もインカレロングに併せて開催された。ここまで定着すれば、このインカレ併設大会での学生トップの者は、トレイルO学生チャンピオンといっても過言ではないだろう。

この併設大会は、学生への普及に多大なる影響を与えており、トレイルO界にとって非常に喜ばしいことである。

今回の大学生の参加者は、Aクラス、Nクラス合わせて50名を超え、大学生以外も含めた合計では、Aクラスは約80名、Nクラスは20名弱であった。

基本的な課題を問うコース、そしてTC(タイムコントロール)が2つ

今大会のコースセッターは山口拓也がつとめた。しっかりとコンパスを振る、地図・地形を読むという基本的な課題を問うコースとなっており、トレイルO初心者から上級者まで楽しめるコースとなっていた。通常のコントロールの正解率は全て70%を超えており、一つでも間違えると大きく順位を落とすという、競技者にとっては気が抜けないものとなった。

また、一般的なトレイルO大会では、TC(タイムコントロール)は1箇所であることが多いが、今回は2箇所用意された。通常のコントロールの難易度があまり高くなかったことから、成績で差を出すためにTC2箇所はちょうど良かったと思われる。

なお、TC2箇所目では、一見難しく見えたが、フラッグは川の西側には1つしかなく、コントロール位置説明をしっかりと見て理解していれば解けるものであったが、かなりの競技者が苦戦したようだ(正解率は44%)。

解説付きの正解表を配布

競技終了後に配布された正解表にはコースプランナーの解説が付いており、各コントロールでの課題や解答方法が記載されていた。これは競技後の復習には非常に役に立ち、トレイルOのスキルアップには重要なものである。特に初心者にとって、各コントロールでの課題や解法が理解できれば、トレイルOの楽しさが分かってくることであろう。

この解説は後日大会ホームページにも掲載され誰でも確認することが出来る。このような解説を作成するのは非常に大変なことだと思うが、他の大会でも実施されればと思う。

学生が上位を占め、全日本大会E権を取得

素直なコースで比較的易しめの設定であったことから、熟練者の多くは何か引っ掛けがあるのではと考えすぎてミスをしたようだ。そんな中、Aクラスでは、満点が8名出て、TCでの秒差勝負となった。この激戦を制したのは、現日本チャンピオンの大久保(ES関東C)であった。続いてTCを4秒差につけた東京大学の茂木が学生チャンピオンに輝いた。上位8名のうち大学生が5名も入る快挙であった。

上位8名は、5月に東京都で開催される全日本トレイルO選手権大会(JTOC)のEクラス出場権を得た(このうち3名は既に出場権を得ている)。

大久保裕介(ES関東C)14点12.0秒
茂木堯彦(東京大学)14点16.0秒
西村徳真(京都大学)14点22.0秒
高田弘樹(東北大学)14点26.0秒
藤生考志(東京OLC)14点31.5秒
日下雅広(東北大学)14点34.5秒
降旗健(杏友会)14点45.0秒
中山史野(東京大学)14点52.0秒

団体戦トップは東京大学

また、各大学や各クラブの上位3名の点数・タイムの合計による団体戦も行われた。並み居る強豪を擁する地域クラブを抑えて、東京大学が優勝した。

東京大学 41点 95.0秒
(茂木、中山、前田)
東北大学 40点 79.5秒
(高田、日下、八重樫)
京葉OLクラブ 39点 99.5秒
(田中、櫻本、早野)

今後のインカレにもトレイルO大会が併設され、多くの学生にトレイルOの魅力を味わってもらい、愛好者が増えていって欲しいと思う。

準備の時間が十分に取れず、少人数での運営にもかかわらず、このような充実した内容の大会を開催した運営者の方々に感謝するところです。本当にありがとうございました。

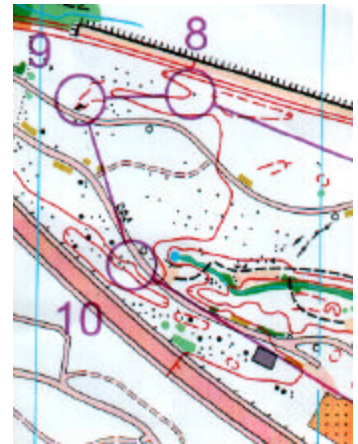
(吉村年史)

* 第4回JTOCのEクラス出場資格者については、JOAのHPで確認できる。



コースの前半部

3番のDPは歩道橋の上にあった課題は「小川」。橋の上から小川を眺め微妙な変化や位置関係を確認



コースの後半部

しっかりと等高線を読むことが必要8番(尾根)、9番(沢、西の部分)10番(沢)